

施工時活用評価表

様式6-1

技術名 先端翼付細径鋼管を用いた地盤補強工法(CPP工法)	登録 No.
	29K1001

施工内容	
施工年度	令和3年
発注機関	新潟市
工事名	曾野木地区市営住宅跡地等施設整備事業 (仮称)コミュニティ施設等新築工事
施工地	新潟市江南区曾野木1丁目乙182番233地内
施工数量	125本

新技術の概要
 本工法は、小規模建築物のための先端翼付き細径鋼管を用いた地盤補強工法です。本工法は、従来の鋼管杭工法よりも直径の細い鋼管を使用するので材料費が安く、施工者の負担の軽減が可能です。また撤去を考慮した施工法を開発しており、供用期間終了後の杭体撤去が容易です。本工事では、鋼管杭工法とCPP工法を併用しており、CPP工法は土間部分に活用している。

活用評価結果

比較した従来技術	鋼管杭工法	
項目	評価	評価内容
経済性	◎	材料費用の減少と施工日数の短縮により、経済性は向上。
工程	◎	鋼管が細径なため貫入が容易であり、工程は短縮。
品質出来形	□	従来技術と同程度。
安全性	○	細径で貫入が容易な為、施工時の騒音が減少。現場での溶接が不要な為、危険物の取り扱いが減少。
施工性	○	資材が小型軽量であり、作業員の負担が減少。
環境	○	使用する材料数量が減少するため、省資源化が向上。
その他	Madein新潟登録技術の「既設杭撤去と撤去跡の締固めを同時に行う技術(KNS工法)」を活用することで容易に鋼管を撤去することが可能であり、土地の再利用がしやすい。	

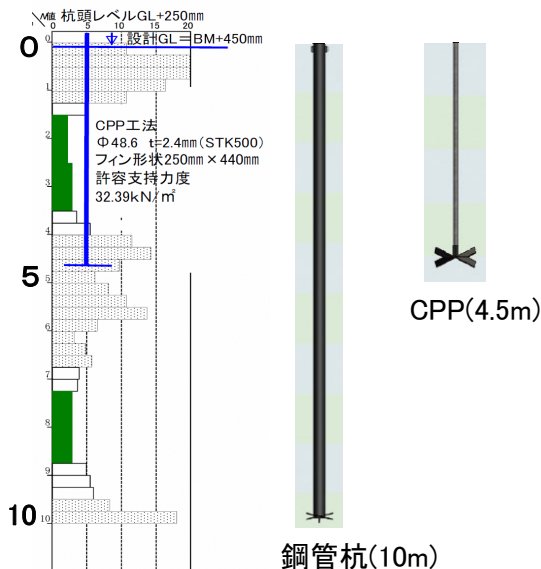
◎: 優れている ○: やや優れている
 □: 従来技術と比べて同程度
 △: やや劣っている ×: 劣っている

活用上の留意点	鋼管貫入時に地中障害物などで偏心する場合は、設計者と協議し適切に再配置を行うこと。
---------	---

新技術問い合わせ先

会社名	有限会社丸高重量
所属部課	営業部
担当者	長谷川泰利
TEL	025-385-4583

複合地盤設計で杭長の短縮が可能
 ※地盤・地質条件から、表層改良や柱状改良は適さないため、鋼管杭工法と比較した。



鋼管の細径化で安全性・施工性・経済性がアップ



容易に完全撤去が可能です。

